①本時を構想する上でポイントとなる素地

○問題解決のための知識・技能

・たす場面とひく場面を理解し，立式することができる。

○既習とつなぐ見方・考え方

・増加と減少の意味を操作と関連付けて学習している。

・順に考える学習をしている。

≪学習問題≫

おんせん駅を　4人で　しゅっぱつ　しました。のうえん駅で，3人　おりました。つぎの　まほう小学校駅で　6人のって　きました。なん人に　なったでしょう。

教材研究ノート№1-A-7

≪定着・活用問題≫

授業計画･実施記録

主眼

≪学習問題≫

![MCj01980660000[1]]()

②見通し：1つの式にしたとき，どのように計算したらいいのか分からない。

→　2つの計算と同じように，順に考えていけばいい。

②学習課題：数図ブロックや絵を使って，電車の動いた順に考えてまほう小学校駅を出発するときの人数を考えよう。

１　課題とまとめを一体のものとしてとらえるには

③個人追究：数図ブロックで，増減を確認しながら，求め方を考える。

④共同追究前半（解法の比較検討）

「4－3＋6＝1＋6＝7　7人になっている。」

「4－3や1＋6は何の数を表しているのだろう？」

→「4－3はのうえん駅，1＋6はまほう小学校駅で電車にいる人数を表している。」

④共同追究後半（思考を深める）

「3＋6を先にしてはいけないのか？」

→「3＋6＝9になる。9人になるときはない。」

「4－9だと，9人降りることになるけれど，9人も降りられない。」

⑤まとめ（子どもの言葉で）

・最後の人数は，電車に乗った順に計算していけば，求めることができる。

・1つの式にしても，計算は1つずつはじからしていけばいい。

⑥定着･活用問題

(1)まほう小学校を　7人で　しゅっぱつ　しました。おんせんで　3人　おりて　のうえん駅で　5人　のりました。いま　でん車に　なん人　のっていますか。

(2)けいさんしましょう。

①7－2＋3　　　　②10－8＋6

(3)9－3＋4になる問題を作ってみよう。

＜本時の展開に当たっての留意点＞

・場面提示では，時間の経過にそって，3枚の絵を示したり動作化したりして，起こっている事象（人数の増減）を具体的に把握させ，立式の根拠を説明させたい。

・共同追究では，計算で求めたものと演算の意味を関連させて，1つの式にまとめることで，どんなことが起こっているのか判断できるよさに気付かせたい。

【板書計画】